ひがしひろしま
郷土史研究会ニュース
No.603
2024年11月

10月例会報告

いよいよ開幕！「広島県郷土史研究協議会 南部地区東広島大会」

10月例会は、10月26日（土）13:30から、市役所北館１階市民協働センター会議室で行われ、24人が参加した。

この日は、研究発表は行われず、２週間後に控えた、広島県郷土史研究協議会 南部地区東広島大会（以下、県史協大会と記す）の準備が予定されていた。

冒頭、赤木会長は「県史協大会に向けて大詰めになりました。オール郷土史で当たっていただけるようご協力をお願いします」と挨拶し、会員に一致団結を呼びかけた。

会長挨拶の後、國松事務局長は、県史協大会について、当日スケジュールや会場配置、参加者人数、会員の役割分担、各セクションの任務などを、資料にもとづいて説明した。

説明後には、質問の時間も設けられた。参加会員からは、市役所駐車場の無料処理の流れやスタッフの昼食時間や弁当受け渡しの方法など、具体的な質問が相次いだ。

今回の県史協大会では、当会創立50周年と市政施行50周年を記念した「まほろば展」と東広島の特産品を販売する「めぐみ展」も予定されている。國松事務局長は、「かなりタイトなスケジュールとなっている。参加者の皆さんに楽しんでいただいた上で、時間内に全てを終えるために、更なるスタッフの行動確認が必要ではないか」と述べ、大詰めの段階での最終確認を呼びかけた。

前日準備は11月８日（金）午後１時から予定されている。時間がある方は全員参加で準備して、大会当日を迎えよう。

＜例会参加者（敬称略）＞西本嘉住、三島昇、蔵楽知昭、蔵楽恭子、福永ツギエ、近藤英治、丸本富美子、山地悦子、光田清志、林田和枝、湯浅宏子、赤木達男、國松宏史、堀内幸子、小西美智子、光野佳代子、谷本操、中川平介、松浦学、船越雄治、吉村鈴枝、間瀬忍、吉田泰義、大森美寿枝（以上24名）

県史協大会当日スケジュール

8:00 スタッフ集合
8:45「くらら」開館
9:00 受付開始
9:30 三味線演奏（吉本正就社中）
9:50 開会式
10:05 総会
10:15 講演Ⅰ
　広島大学大学院 教授　熊原康博 様
　「地図を活用した郷土史のススメ
　　－東広島の事例から－」
11:25 講演Ⅱ
　東広島郷土史研究会　松木津々二 様
　「日本最後の酒都『西條』」
11:55 来年度県史協大会案内
12:00 閉会の辞
12:05 諸連絡
12:15 昼食
13:10 臨地研修集合
13:15 臨地研修出発
16:00 臨地研修帰着
16:30 スタッフミーティング、解散

臨地例会（三原市久井町）の報告

大森美寿枝

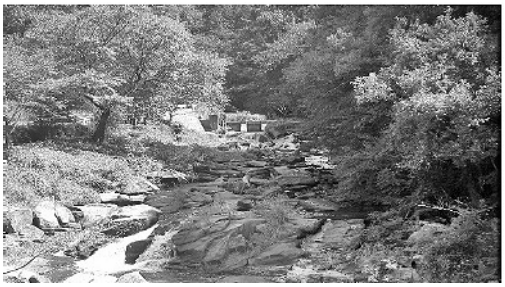
日　　時：令和６年９月28日（土）
　　鏡山第二駐車場８時40分
　　市役所横バス停９時00分出発
参加費用：1,200円（各自昼食・飲み物用意）
参 加 者：24名
見 学 地：三原市久井町
【コース】
鏡山第二駐車場→市役所横バス停→西条Ⅰ.C→高坂パーキング→久井Ⅰ.C→落合渓谷（散策）→三原市久井歴史民俗資料館（昼食）→久井稲生神社→久井岩海→久井Ⅰ.C→小谷サービスエリア→西条Ⅰ.C→市役所横バス停→鏡山第二駐車場（解散）

異例な厳しい残暑が続いており暑さ対策を心配しましたが、丁度よい曇り空の中を予定通り

11月例会のご案内

11月９日に県史協大会が開催されるため、11月の例会はお休みいたします。
ご了承ください。

利用させていただき、参加者24名で目的地久井に向けて鏡山第二駐車場を８時40分に出発、この度も「東広島市社会福祉協議会」のマイクロバスで研修に向かいました。途中、久井町坂井原の「落合渓谷」を散策。＊この地が備後国と安芸国の境になり、境→坂井原となったと言われています。



【落合渓谷】は花崗岩によって形成された渓谷で上流には岩海があります。しばし、マイナスイオンを吸収して楽しみました。

春先は「マンサク」の黄色の花、桜の花が一帯を彩り、初夏にはホタルが見られるそうです。秋の紅葉も見事だと思われます。近くには大正末期に造られた「坂井原水力発電所跡」が残っていて地元の歴史を感じます。

短時間でしたが気持のよい散策でした。その後メイン会場の「久井歴史民俗資料館」へと向かい、午前10時30分過ぎに到着、資料館の方が温かく迎えて下さり感謝です。

【久井歴史民俗資料館】は平成29年（2017）に旧久井小学校の校舎を利用しオープンした資料館です。

１階の第１展示室「久井（杭）の牛市」では実際に牛市で使用された資料が展示してあり、また、パネルでわかりやすく説明されています。展示室中央には実物大の牛とジオラマが置かれ往時の繁栄を見ることが出来ます。

久井町は「杭の庄」といわれ、伯耆（鳥取）の「大山市」豊後（大分）の「浜の市」とともに日本三大牛馬市として称され栄えたところでした。久井牛馬市の起源は古く天暦５年（951）といわれ千年もの歴史を有する牛馬市です。

江戸時代に広島藩の公認となり秋市が開かれ文化年間（1804～1818）からは春市も行われるようになり最盛期には１万５千頭もの牛馬が集まったと言われています。「杭の牛市跡」は昭和41年（1966）12月に広島県史跡に指定されています。展示室には各農家などに牛馬と共に宿泊しその時使用した番号札が多く残されています。しかし、農業の機械化等により農村から牛馬（役畜）が消滅し肉牛、乳牛（用畜）へと変わり久井牛馬市も昭和39年（1964）に長い歴史に幕をとじました。

牛馬を連れた人々の往来で賑わった門前町の通り（参道）の街燈が今もわずかに往時を偲ぶことができます。

資料館には牛市の展示室の他第２展示室～第４展示室まであり第２展示室は「節句どろ人形と人の一生」をテーマにした展示室です。

久井では初節句を迎える子どものお祝いとして土人形を贈る習わしが盛んであったといわれ、天神や武者、七福人、動物などの人形で後ろ側は彩色されておらず、その白い部分に初節句の子供の姓名や生年月日などが記入してあります。

展示室には地元の収集家により集められた沢山の土人形が保存されており、「久井町の節句どろ人形」として広島県有形民俗文化財に指定されています。土人形の素朴な柔らかい味わいに参加者一同は魅入ってしまいました。

第３展示室、第４展示室は生活で使われていた提灯などの灯りや農具が展示されていました。

先祖が積み上げてきた生活の知恵と文化の豊かさが感じられる道具に、生活様式が大きく変わった現在ですが、昔を知ることで今の暮らしがある大切さを次世代に継ぐことが出来る貴重な展示室がいつまでも残されることを願います。

館内の見学を済ませ、研修室に全員もどり地元の歴史家から簡単な久井の歴史の話を聞きそのなかに、郷土史から岡山の臨地研修の際に話題となった「備中高松城水攻め」の時、高松城主清水宗治と共に切腹した家臣「羽倉城主末近四郎三郎信賀 すえちかしろうさぶろうのぶよし」の供養碑と伝わる碑が久井町にあることを確認することができました。

その後、資料館の好意により研修室で昼食をさせていただき、和やかなランチタイムをとることが出来ました。

午後、昼休憩を済ませ12時40分に次の見学地「久井稲生神社」に向かいます。

久井歴史民俗資料館の方々には土曜日のお休みにもかかわらず色々とご配慮いただき心より感謝しています。

【久井稲生神社】はむらを一望に見渡せる高台にあります。少し狭い門前町の通り（参道）を

抜けて10分位で神社下の駐車場に到着、そこには地元NPO法人代表玉浦氏が案内の為すでに待機しておられ、道案内をしていただきました。長い石段を上ることに参加者の平均年齢を考えると少し不安でしたが、全員無事に稲生神社の赤い鳥居をくぐり石段の両側の玉垣を見ながら境内まで上り久井を一望することができました。神様のご加護ではと思います。

境内には稲荷神社の神使とされる狛狐の石造物が文政７年（1824）と慶応４年（1868）に建立された２対が置かれており、境内中央には寛政８年（1796）建立の浪速型狛犬が堂々と座っていましたが３点とも劣化しているのが残念です。

神社では拝殿に用意されていた席につき、まず宮司さんからお祓いをしていただき，稲生神社の由緒等について詳しく説明をうけました。

・久井稲生神社は天慶元年（938）創建され、伏見稲荷大社の分霊としては日本最古といわれています。神社の近くの室山（亀甲山）で天暦５年（951）牛馬の取引が始まったと伝わっています。中世この辺りは牛馬を繋ぎ留める「杭」が地面に無数に打たれていたことから「杭の庄」と呼ばれ、その後明治になり現在の久井になったと言われています。宮司さんの説明によると室山には日向松を植えて多くの牛を繋いでいたとのことです。神社近くには伯州街道（伯耆・鳥取の大山へつなぐ道）が通り交通の要所であったため、神社と関連して牛馬の取引が発展していったことが伺えます。

・久井稲生神社の祭神
宇迦之御魂大神（うかのみたまのおおかみ）、和久産巣日神（わくむすひのかみ）他３神
相殿（あいどの）　天照皇大御神（あまてらすすめおおみかみ）

・境内社　八重垣神社（やえがきじんじゃ）、冥府神社（みょうぶじんじゃ）
天慶元年（938）現在地に遷座し、以後焼失と再建を繰り返します。

・弘治３年（1557）毛利元就　本殿造営

・永禄３年（1560）小早川隆景　社殿造営
紙本墨書大般若経六百巻寄進
（広島県重要文化財）

・元禄14年（1701）三原城主第４代浅野忠義により現在の（本殿、幣殿、拝殿）を再建、社殿は平入、三間社入母屋造、正面に千鳥破風を付け、一間の向拝は軒を唐破風にしてあり華やかな造りとなっています。

・主な行事

１．御福開祭・はだか祭（二月第三土曜日）
夜七時より40代の厄年の男を中心に福木を奪い合う迫力満点の祭りです。

１．祇園祭・7月15日に近い日曜日
ぎおん踊り（広島県無形民俗文化財）

１．例祭・10月19日に近い日曜日
「御当」おとう（文化長官無形民俗文化財）と呼ばれる行事が例祭の日に行われます。中世の宮座を伝えている貴重な行事で、氏子を中心に行われる祭祀の一連で大鯛を特色ある包丁さばきで料理し、やがて直会へと進みます。この行事は慶長３年（1598）「稲荷御当之覺」の記録とほぼ近い形で現在も行われているそうです。

古代より久井のシンボルでもある久井稲生神社は地元の人々により大切に維持管理され、今も古式ゆかしい伝統行事が盛大に行われており、毎年多くの参拝者で賑わっています。行事が行われる際に是非お参りし息災を願いたいと思います。

引き続き玉浦氏の案内で岩がゴロゴロと広がっている不思議な場所へと向かいます。

【久井岩海】は三原市最高峰の宇根山（標高699m）山腹(標高480～590m)にあり、ゆるい谷間に沿って大きな岩が帯状に重なり合っている景観は壮大です。日本最大規模の岩海は国天然記念物に指定されており、また、面積は元市民球場の約４倍22haを有し日本地質百選にも選ばれています。

玉浦氏の案内で眺めの良い（なかごうろ）と呼ばれているところまで坂道をゆっくり登りました。前もって地元の人達50人余りで草刈をされたと聞き有難く感謝です。

山の谷間にどうしてこんな大きな岩が？ふし

ぎです。説明によると、大きな岩盤が気温の変化などにより割れ目（節理）ができて崩れてゆき丸みを帯びた岩石が地表に出てきたものです。久井の岩海の岩盤は花崗岩の一種である「花崗閃緑岩」（かこうせんりょくがん）という種類で、風化しやすい性質をもっており、さらに風化して玉ねぎの皮のようにはがれていき、砂れきやマサ土に変わってしまいます。気の遠くなるような年月をかけて出来上がった壮大な岩海もいずれ土砂に埋もれ、草木に覆われてしまう可能性があり、地域の人達で定期的に草刈など行い美しい自然の景観を後世に残すため努力をされています。

森の谷間がまさに岩の海のような不思議な場所は柔らかな日差しと木々の爽やかな香りに包まれたやすらぎの里山でした。

久井岩海の全長を見学すると約1,700ｍもあるので、最短コースで案内していただき最後に参加者全員が船越カメラマンの記念写真に収まり、帰路へと久井Ｉ.Ｃに向かいました。

岩海を案内していただいた玉浦氏がＩ.Ｃへ通じる道までバスを誘導して下さり、迷うことなく久井Ｉ.Ｃに乗ることが出来、途中小谷サービスエリアでトイレ休憩をはさみましたが、予定通り鏡山第二駐車場に帰着しました。

今回の例会研修に訪れた久井は、東広島市の白市と同様に牛馬市で栄えた歴史があり、立地条件も同じく双方とも交通の要所でした。久井の牛馬の商いの数は最盛期には約１万５千から１万７千頭とも云われており、白市の最盛期に売買された牛馬の約500頭と比べて驚くほどの数です。久井を訪れてみると、周囲はなだらかな山並みが続き裾野は広い田畑が広がり、山陰と山陽の中継市場として恰好の場所であったと伺われます。久井には当時を知る資料が残され資料館に展示して次世代に伝えられており、白市にも牛馬市の歴史を伝えるため残された資料を展示する場所が欲しいものです。

この度の久井見学にあたり、資料館、稲生神社、岩海の説明と案内をしていただいた久井の方々の温かいお心配りに感謝いたします。

また、参加された皆様のご協力により意義のある研修となり、無事終えることができました。心よりお礼申し上げ報告といたします。

第４回昔の道探訪会「松永」

吉田 泰義

2024年９月21日(土)福山市へ臨地研修。電車で約１時間、９時49分に松永駅で下車、南へ５分ほど歩くと「あしあとスクエア」へ到着。まず外を15分程見学したので概略を紹介する。

「伝統産業館」松永地域の近代産業を支えた下駄・い草・塩の生産関連の資料や機械器具が多く少年時代を思い出した。

「足あと広場」昭和53年（1978）博物館開館にあわせ男女の足あとを主題に岡本太郎氏が制作した不思議な空間。

「旧マルヤマ商店事務所」大正11年（1922）の洋風建築、平成８年（1996）広島県初の国登録有形文化財に指定。

「職人長屋」下駄の半製品を手作業で仕上げていた、大正８年（1919）当時は62戸が軒を連ねていたそうである。

「松永はきもの資料館」

大ばらゲタ

野球靴

入館料300円、ロビーの展示物にまず驚かされる。福山ゆかりの大ばらゲタや大草履、広島カープの新井貴浩や黒田博樹の野球靴、広い休憩室の壁には福山市出身の有名人をパネルで紹介。そこから女性学芸員に約２時間案内してもらった。

「第１展示室」はきもの、栄光のはきもの、「第２展示室」はきもの、人と大地の接点としての日本と世界のはきもの資料が約13,000点収蔵されているとのことで、先人の知恵が偲ばれた。私が改めて注目したのは、スポーツ選手の栄光のはきもの、田植えに使われていた「高下駄草鞋」、旅で履かれた「草鞋・わらじ」と日常履いた「草履・ぞうり」。私の少年時代は貧しく「草履・ぞうり」か「裸足・はだし」で遊び「下駄・げた」を買ってもらった時は嬉しかったのが今も忘れられない。

「第３展示室」には「玩具の樹」から「玩具と縁起」。「第４展示室」には「天神さま」など見事で魅入った。

貴族の飾りから庶民に広がったお雛様

「第５展示室」には「故郷の玩具」

日本全国地方順にふるさとの玩具

「第６展示室」と「第７展示室」には「カチカチ人形」や「世界の玩具」私はほとんど知らないものばかりで驚き魅入った。

「第８展示室」には博物館開館時の記念写真、松永市金江町の宮澤裕の生家跡、裕は小さな農家の長男に生まれたが苦学して東京帝大を卒業、県庁勤め後に実業界に入り出世して、昭和３年（1928）衆議院議員に当選し６回連続当選、宮澤喜一は裕の長男で東京生まれであるが、父の地盤を引き継いだ二世議員である。

新設された「宮澤喜一記念館」

昭和の戦後をリードした87年の生涯年表、功績の遺品や写真、愛用品や勲章など、福山市制作の映像コーナーなど見学した。

大正８年（1919）東京生まれ、東京帝国大学卒業、昭和17年（1942）大蔵省入省、昭和20年（1945）津島壽一蔵相秘書官、昭和24年（1949）池田勇人蔵相秘書官、池田の勧めで政界入り、昭和28年（1953）より参議院議員、昭和42年（1967）より衆議院議員、国会議員在職49年間。平成３年（1991）から第78代内閣総理大臣を２年間、平成15年（2003）政界引退。平成19年（2007）87歳で亡くなったが、米国との平和外交、特に大蔵大臣として活躍され、笑顔で穏やかでユーモアもあった印象だが、反面頭が良すぎて相手を見下したり、頑固で毒舌家、酒豪などの伝説もある。

広島県への貢献も多大、福山が故郷である私の誇りでもある。

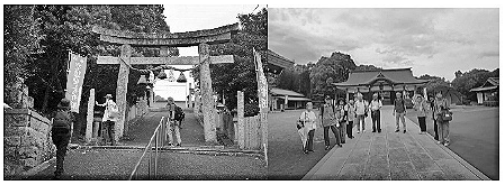
小西、山地、上野、蔵楽、西本、神本

國松、吉村、吉田、大森、堀内

「神村八幡神社」

延久元年（1069）創祀、京都の男山八幡宮の分霊を奉祀。祭神は誉田別尊（ほんだわけのみこと）、姫大神（ひめおおかみ）。本殿は三間社入母屋造、向拝、千鳥破風付、銅板葺。付属社殿は幣殿、拝殿、神輿社、手水舎、社務所、参集殿、鳥居二基。摂末社は稲荷神社、熊野神社、艮神社、八重垣神社、天神社、石鎚神社。

長い参道の脇に本殿迄上がれる車道が整備され、例祭や交通安全の車両祈願や家内安全祈願などで近隣から信仰されている。



松永駅から南は主に工業地帯、北は昔の西国街道を挟んで国道２号線と自動車道松永バイパスの周辺が東西に発展しているが、その中間にある神村八幡神社へ一時間ほど歩いて往復した。

第５回昔の道探訪会

11月27日（水）９時に福富の道の駅に集合、竹仁の里に移動し探訪予定、参加希望者は事前連絡よろしく。（大森・吉田）

創立50周年特別寄稿　第６弾

郷土史研究会は、青春時代だった!!

今田 幸博

私と郷土史研究会の関わりは24歳の時、昭和49年（1974）４月四町（西条・八本松・高屋・志和）が合併して新しく東広島市が発足、その年の７月満を持して郷土史研究会も発足、私も志和の同好の先輩方に誘われ発足メンバーの一員として参加。当時のメンバーは、各界で活躍されていた錚々たる方々で、20歳代の会員は私一人だったと思います。

発足した会は、活気に満ち溢れ前途洋々でした。次から次と色々な行事を企画され、私も若い人が頑張らなくては駄目だとハッパを掛けられ、色々な役を仰せつかりました。

まずは、市内・県内の「臨地研究会」、企画・資料の準備・車の手配・当日のスケジュール調整等で、私自身ゆっくり見学する余裕はありませんでしたが、参加者の方々の満足そうな顔を拝見すると、苦労も吹き飛び本当に良かったなと実感した事を思い出します。

中でも一番の思い出は、昭和51年（1976）から始まった東広島市教育委員会と共催し、東広島中央公民館で開催した郷土史研究会最大のイベント「郷土史展」です。これまで市内でこのような展示会の開催は皆無でしたので、展示会を成功させるため会員の皆さんが分担を決め力を合わせて頑張りました。私も当時職場が西条町内でしたので仕事を終えたあと、東広島中央公民館でメンバーの方々と連日夜遅くまで資料作成に取り組みました、当時はパソコンなど有りませんでしたので手書きの資料がほとんどで、今思えば隔世の感があります。

この「郷土史」展は、いつも盛会でやりがいのある展示会でした、今でも当時のことを鮮明に思い出します、私にとって楽しい青春時代の出来事でした。

郷土史研究会が結成されて50年、私も74歳になり、当時を知る会員の方も殆ど鬼籍に入られました。しかし私はまだまだ探求心は衰えていません。これからも会員の方々と切磋琢磨し頑張っていく決意です。

東広島郷土史研究会の活動内容が知りたい方はこちらをご覧ください。

↓　↓　↓

Instagram　HP　Facebook

※過去１年分の『ひがしひろしま郷土史研究会ニュース』もHPからご覧いただけます。

12月例会及び忘年会のお知らせ

日　　時　12月13日（金）10:30～
場　　所　憩の料亭 白竜湖
　　（ホテルヴァンコーネル３階）
参 加 費　2500円
　※例会のみ参加の方は参加費不要
　※忘年会への参加は要事前申込み
申込期限　11月20日（水）
申 込 先　大森さん　090-9462-9861

グループ研究会ご案内

第291回 古文書研究会
と　き　11月19日（火）13:30～
ところ　市役所北館 市民協働センター
テキスト　国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑨

第189回 石造物研究会
と　き　11月26日（火）13:30～
ところ　市役所北館 市民協働センター
内　容　第３回石造物探訪会資料検討

第188回 四日市町並研究会
11月はお休みします。

第５回 昔の道探訪会（旧山城探訪会）
と　　き　11月27日（水）9:00～
集合場所　道の駅 湖畔の里福富
探訪場所　竹仁の里

原爆資料保存研究会
と　き　11月21日（木）14:30～
ところ　市役所北館 市民協働センター
内　容　被曝80周年記念事業の内容検討

11月の図書室開放
と　き　11月15日（金）13:00～15:00
ところ　高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース
第603号
令和６年（２０２４）11月５日発行
編集・発行　東広島郷土史研究会
会　　長　赤木達男　TEL(082)423-7235
E-mail:akatatu@d4.dion.ne.jp
事務局長　國松宏史　TEL090-7979-6234
E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp
会報編集　間瀬　忍　TEL080-5756-2303
E-mail:mase shinobu@yahoo.co.jp